



Lions Clubs International
FOUNDATION

災害援助： 未来に希望を



深刻な人道危機



2017年9月20日水曜日の朝、プエルトリコを襲ったハリケーン・マリアはこの島を破壊し、340万人の全住民を深刻な人道危機に陥れました。

そのわずか2週間前には、ハリケーン・イルマが島の北部をかすめて停電を引き起こし、100万人以上に被害を与えたばかりでしたが、ハリケーン・マリアはプエルトリコにとって80年来で最悪の暴風雨となりました。家族、そして島のインフラへの影響を克服するには、今後長年を要することになるでしょう。

マリアがプエルトリコに猛威を振るう中、L. ミリアム・バスケスの頭の中をさまざまな考えが駆け巡っていました。L. バスケスはサンファンにあるライオンズ・アイバンクの事務局長を務めていましたが、その彼女には分かっていました。親切なドナーから提供され、診療所に保管されている角膜を氷詰めにし（傷みやすい組織は1℃～8度で保管する必要があります）、予備発電機を備えた病院に移送しなければなりません。マリアが予測のように強く、停電が長引くなら、アイバンクの小さな発電機は頼りにならないでしょう。

ライオンズクラブ国際財団 (LCIF) は、プエルトリコの災害援助に充てられるよう、51複合地区のライオンズに100,000ドルを交付しました。ライオンズの地区が大規模な人道奉仕事業を企画・実施するための交付金についての詳細は、lCIF.org/Grants をご覧ください。

ハリケーン・マリアを耐え抜いて



カリブ海地域の人々には、ハリケーンの前にいつもやっておくことのリストがあります。車のガソリンを満タンにすること。ATMから現金を引き出すこと。乾物類、水、電池を備蓄すること。植木鉢や中庭の家具を安全な場所に移し、シャッターに錠をかけ、窓やドアの隙間にタオルを詰めることで、家やアパートが嵐に耐えられるようにすること。チェックリストに従い大慌てで診療所と自宅の備えを固めながら、L. バスケスは娘のマリアのことを考え続けていました。マリアは妊娠8か月です。妊婦の彼女がプエルトリコに残ったのは正しい選択だったのでしょうか？

米国イリノイ州シカゴの親戚が、彼女の安全を考えて避難移住を勧めてくれたのに。しかしマリアは、島を離れた病院で子どもを生んだ場合に健康保険が下りるか心配でした。自然災害なら耐え抜く自信がありました。大きな借金を抱え込むことは怖かったのです。

マリアは母親が心配すると思い、嵐の晩に両親二人に泊まりにきてもらうことにしました。「そうすれば、私が無事していると分かって安心できるでしょう」とマリアが言うので、L. バスケスと夫は荷造りを始めました。同じような光景はプエルトリコ中の家庭で見られました。家族と友人が集まって夕飯を作り、天気予報を見守り、少しでも眠ろうと努力しました。

“怖かった、本当に怖かった。家を失い、食べ物を持たない人々が無数にいるはずでした。スーパーも、ATMも使えません。電気も来ていないのです。”

— サバナジャナ・ライオンズクラブ L. マリア・バスケス

人々に希望を

世界のどこであっても、災害が起こったら、ライオンズはLCIFに緊急援助交付金を申請できます。緊急援助交付金は通常10,000ドルで、目的は被災者の緊急ニーズを満たすことにより、後に通常の生活を取り戻せるよう支援することです。しかし、被害が極めて広範囲に及ぶ場合には、LCIFが250,000ドルを上限とする大災害交付金を交付します。

自然災害の発生時にライオンズからの電話を最初に受けることになるのは、通常LCIF人道支援イニシアチブ課のカソンドラ・バード課長です。「私がこんなに自然災害に詳しくなるとは夢にも思いませんでした」と語るバード課長は、プエルトリコのライオンズが連絡してくる前から報道を見て、ハリケーン・マリアがもたらした被害は大災害交付金を受けてしかるべき規模だと考えていました。世界中のライオンズも、明らかに事態を見抜いていました。マリアの襲来からほどなくして、ライオンズは「プエルトリコ」を指定して寄付を始めました。困難を極めるに違いない復興を支援するには、資金集めが決定的に重要だと知っていたのです。

プエルトリコのライオンズがついにバード課長に連絡し、彼女のスペシャリスト・チームは待っていたかのように交付の手続きを進めましたが、100,000ドルの送金は口で言うほど容易くないことが分かります。バード課長は言います。「島では多くが瓦礫と化していました。私たちは、ライオンズが資金を受け取れる銀行が営業を再開するまで待たなければなりません。次に、ライオンズは命を救い、維持するための物資を購入できる店を探す必要がありました。状況はガソリンスタンドでも同じで、タンクがいっぱいになるまで何時間も待たされました。一つ障害を乗り越えると、また別の障害が待ち受けているのです。」



ハリケーン・マリアがプエルトリコを永久に変えた翌朝、フェリックス・カマチョ・アヤラ地区ガバナーは愛する母国の惨状に愕然としました。「何もかも死んだようでした」と彼は言います。それは本当でした。鳥のさえずに満ちていた朝は、今ではしんと静まり返っています。夜になると聞こえてきたプエルトリコの象徴、コキーコヤスガエルの合唱も消えました。

2日後、彼にミリアム・バスケスから電話がありました。彼女はサンファン・コンベンションセンターに設けられた緊急司令部を訪れ、米連邦緊急事態管理局 (FEMA) の代表と会っていました。「コンベンションセンターにいた時、早くもプエルトリコに支援が殺到していることを知りました。しかし同時に、物資をどこに、誰に宛てて送ればいいのか分からないため、配布のネットワークがほぼ機能していないことにも気づきました。」



LCIFの緊急援助交付金が届こうとしていたので、L. バスケスはプエルトリコの3人の地区ガバナー — 東部のアヤラ、中央山脈のエミリオ・コロン・ロドリゲス、西海岸のクリスティーノ・ヘルナンデス — に連絡し、各地で配布する物資の出荷を調整しようとしたのです。「地区のライオンズに物資が来ることを伝えました。ベストを着て、額に汗する、ライオンズの出番が来ていました」と、アヤラ地区ガバナーは述べています。

毎日、一日が終わると、アヤラ地区ガバナーは帰宅し、市内の新しい区画に灯りがともるのを見つめました。それは復興が進んでいることを示していましたが、市内でまだ電気の来ていない暗い一角を見ると、多くの仕事が残されていることを痛感しました。2017年の9月から12月にかけて、ハリケーン・マリアがもたらした損害は916億1,000万ドルを超え、死者数は2,098人に達しました。悲しいことに、その死者数は、2018年2月末までに2,975人に増えることになります。プエルトリコのライオンズにとって、こうした数字は胸にこたえました。

嵐が去ってから2週間後、L. バスケスの娘マリアの陣痛が始まりました。お産は大量出血を伴い、ホアキンと名付けられた男の子は人生最初の6週間を集中治療室で過ごしました。マリアの命は助かりませんでした。サンファンで行われたマリアの告別式には、島中からライオン

ズが集まりました。教会は満席となり、立ったまま参列する人もいました。

“

「マリアはライオンでした」とL. バスケスは言います。「そして人々は私に、彼女にどのように助けられたかを話してくれました。マリアには、自分よりも地域社会を優先するところがありました。彼女を正しく育てることができたことは、私にとってせめてものなぐさめです。」

”

マリアの遺志を引き継ぐためにL. バスケスが考えた最善の方法は、悲しみを糧にライオンとして地域社会奉仕に尽くし、母国を瓦礫の中から立ち上がらせることでした。

一年後



一年後には、30万人を超えるプエルトリコ国民が島を去っていました。家全体を立て直す資金がなく、やむなく一間に住んでいる家族もあります。多くの人々が親戚との同居を余儀なくされています。しかし、この強大なハリケーンを耐え抜いた人々に、立ち直る力があることは明らかです。

彼らは自身も苦しみながら、他者への支援を続けています。自分たちの活動に情熱を傾けるライオンズは、被災者が手助けを求めた時、普段は見せない底力を発揮しました。なすべきことはまだ多く残されています。そこには今もライオンズがいて、支援を必要とするプエルトリコの人々に奉仕しています。

51複合地区のライオンズは引き続き、ハリケーン・マリアの被災者がまだ苦しんでいる地域を特定し、彼らの生活の再建を支援できるパートナーを探しています。プエルトリコの人々は、国そのものと同じように、美しく、気さくで、温かい人々です。私たちが他者を献身的に支援する活動を続ける中、LCIFはプエルトリコの人々に明るい明日が来ることを待ち望んでいます。

未来に希望を



lCIF.org/BE100



C A M P A I G N | 100
LCIF • EMPOWERING SERVICESM

lCIF.org/BE100を訪問し、キャンペーン100がどれほど深く災害援助活動に関わり、時と場所を選ばない自然災害への対策と対応に取り組んでいるかをご確認ください。

世界中のライオンズの思いやりの活動を支援するため、今日にでもLCIFの災害援助資金にご寄付くださいますよう、お願いいたします。

今すぐ寄付を！



Lions Clubs International
FOUNDATION

ライオンズクラブ国際財団
300 W. 22nd St. | Oak Brook, IL 60523-8842 USA
+1.630.571.5466 | lCIF.org/BE100